

社会科の特質に応じたICTの効果的な活用を(社会科)

■ポイント1 学び方や調べ方を大切に、児童生徒の主体的な学習の一層の重視

(中学校学習指導要領第2章第2節社会第3の2内容の取扱いについての配慮事項(2)から)

児童生徒が、自ら問題意識をもち、問題解決の見通しを立て、必要な情報を収集し、情報を読み取り、情報を分類・整理してまとめたりする学習活動の構成が大切である。

○環境の整備が重要

児童生徒が学習において日常的にICTを活用できる情報通信機器の使用環境を整備する。

○指導上の留意点

・ICTを活用した学習場面を想定し、単元を通じた授業デザインが必要である。

・課題の追究や解決の見通しをもって児童生徒が主体的に情報手段を活用できるよう指導に努める。

■ポイント2 「社会的事象について調べまとめる技能」の育成

(中学校学習指導要領第2章第2節社会第3の2内容の取扱いについての配慮事項(3)から)

○「社会的事象等について調べまとめる技能」を小・中・高の学習指導要領解説に共通して掲載(小はP152・153、中はP186・187に掲載)している。

○「社会的事象について調べまとめる技能」を児童生徒に身に付けさせるためには、ICT機器を活用した学習活動のより一層の充実が求められる。

○情報の収集による情報リテラシーの育成も大切である。

(国策研教育課程調査官 中嶋 則夫氏の資料より)

授業におけるICT活用事例としては、次のようなものがあります。(県指導方針説明会資料より)

1 調べまとめる 「身近な地域や市の様子」「地域に見られる生産や販売の仕事」

地域の調査・見学活動において、写真や動画で情報を集め、話し合っって特色をまとめる

2 資料の重ね合わせ 「津波からの安心・安全避難マップを作ろう」

様々な地図を重ね合わせて学校や通学路を書き込む、安全な避難ルートを考える

3 データ分析 「調査資料に基づく地域分析」

提示されたテーマに関連する統計データを複数選び、吟味する

4 デジタル資料活用 「資料を活用して歴史の事象を考察する」

公文書館のデジタル資料を活用して立憲体制を理解する

歴史と現代社会の関わりを考える

5 情報リテラシーとアンケート 「社会参画への意欲の涵養」

情報の収集による情報リテラシーの育成とアンケート機能による社会参画への意欲を涵養する

様々な制限を受けた夏を過ごして9月を迎える児童生徒への対応について

各学校では、夏季休業明けに向けて諸準備を進めていることと思います。不登校児童生徒及び登校を渋りがちな児童生徒については、夏季休業中に保護者への連絡や家庭訪問等を行うなど、継続的に様子を確認していることに感謝します。

厚生労働省の統計では、8月と9月の児童生徒の自殺者数が増加し、令和2年度で見れば、前年8月と比較して約2倍に増えていることから、特に休業終了前及び再開直後は、不安解消に努めることが必要となります。

併せて、8月17日に発出された緊急事態宣言により、部活動自粛や外出制限等の様々な制限を受けるとともに、9月からの学校生活に対する不安を感じるなど、多くの児童生徒が心にストレスを抱えていることが考えられます。支援の必要な児童生徒への今後の指導・支援のポイントを以下に示しますので、更なる取組の充実にお役立てください。



■休業期間中に

- ・本人や保護者への連絡、状況に応じた家庭訪問等により継続的に様子を確認する
- ・児童生徒に自殺を企図する兆候が見られた場合には、組織的に対応する

■休業期間明けには

- ・アンケート調査、教育相談等を実施し、悩みを抱える児童生徒の早期発見に努める
- ・必要に応じてスクールカウンセラー等による支援を行うなど、適切に対応する

※ 既に文部科学省より通知されている「児童生徒の自殺予防に係る取組について(通知)」[R3.6.23]を改めてご確認ください。自殺等対策の取組事例や早期発見のためのツール例なども資料で添付されています。

また、内閣官房に「孤立・孤独対策担当室」が設置され、新しいウェブサイトも開設されました。そこでは、18歳以下の若者の悩みに応じた相談窓口を、ウェブ上で紹介してくれます。ぜひ、ご確認ください。

